

## 特集：卒業

## 生物学類学生表彰を受賞して —生物学類で学んだ事—

犬塚 聡（筑波大学 生物学類 4年）



2012年3月に筑波大学生命環境学群生物学類を卒業する犬塚聡と申します。この度は生物学類学位授与式において生物学類学生表彰を賜り感謝申し上げます。

私は生物学類で4年間学び今回の賞を頂きましたが、大学に入学した当初の私は生物学の教養をほとんど身につけておりませんでした。しかしながら教員の皆様による丁寧な説明を拝聴する度に知識を増やす事が出来ました。教科書を通してよく知っている実験でも、実際に自分で再現すると戸惑う事も多く、共に実験をされる同期や後輩に多大な迷惑をかけました。それでも教員やTA、また一緒に実験した同期の尽力により良い実験結果を得る事が出来、論理的にまとまったレポートを提出する事が出来ました。よって今日にこのような栄誉ある賞を頂けたのは生物学類に所属される教員・先輩・同期・後輩の皆様を支えられたお陰と考えております。

本稿では卒業に因んで私が生物学類で4年間学んだ事を紹介したいと思います。大学の学業は学部により様々な資格や技術が身に付くので、人生に大きく影響します。私は生物学を通して問題解決力を得ました。ここで述べる問題解決力とはテーマにそって仮説を立て、客観的な手段によって改善を行い、問題が解決された事を科学的に評価する過程を意味します。卒業研究として植物を研究した私も、実験方法や結果の解釈において様々な問題を解決しなければなりません。植物生理学に限らず生物のいかなる学問においても、この問題解決力は例外なく必要とされると思います。

就職活動を終え、これから大学を卒業する今になって生物学類では貴重なものを学んだように感じます。私は就職活動を続ける中で、研究職に限らず生産技術職や営業職にも学生の問題解決力を重視する企業に数多く出会いました。企業では不良品削減や事務的業務改善の為に、常にテーマを見つけて改善する習慣が日常化されているそうです。そうした企業で働く事を考えると、生物学類で身に付けた教育は非常に有意義であるはずで、生物学類では入学から3年間、生物に関する知識をリアルタイムで学ぶ

機会があります。生物学類の講義では今までの研究がどの様に進められたかや、今後解明すべき課題まで言及されます。特に私は光合成の研究やリボザイムの発見に関する講義が最も印象に残っております。それらの研究では偉人達の優れた”アイデア”により、必ずしも最先端の技術を必要としなくとも画期的な成果を上げている為です。その”アイデア”を閃くには、解決すべき問題を的確に考え、効率的な解決策を見つける能力が必要かもしれません。その様な過去の研究者に畏敬の念を抱くと共に、自分でもそうした能力を身につけたいと考えておりました。大学では誰もが必ず経験するレポートも、生物学類では資料を調べるだけでなく考察に力を入れる点が特徴的でした。課題として自分の意見を求められた時、私はどんな考えをまとめようかと、構成を一日中考えていた事もありました。

そして3年次末には生物学演習によるテーマ設定から始まり、実際に生物学の最前線において研究を行います。これまでとは異なり、実験から得る結果は未知数です。結果によっては新たに問題を生じる事もあり、指導教員や先輩と共に次の解決策を考えているうちに一年は驚くほど早く過ぎました。そして大学を卒業する頃には、私は自分から課題を考える事が長所として身に付いた事を実感しました。

前述した通り、大学教育は職業選びで最も重要な期間であると思います。その事から基礎的な学問よりも実学分野の方が就職に有利とも云われます。しかしながら課題を発見し対処する力もまた、社会人となる上で必要な素質であると思います。私は卒業後に生物学の研究から離れますが、生物学類で学んだ問題解決力は今後社会生活の場で役立て、更に磨きをかけたいと思います。然るに生物学に興味のある方は就職活動だけを考えるのではなく、楽しみながら大学時代を生物学類で勉強される事をお勧めします。

最後になりますが、つくば生物ジャーナルにおいて本稿の為に紙面を割いて下さった事に心から感謝申し上げます。そして読者の皆様、最後まで本稿をお読み下さりありがとうございました。

Communicated by Takeo Hama, Received March 28, 2012.